

記

新制大学におけるその組織の一環としての大学院は、科学技術の研究者養成の最高機関として構想されたものである。従つてこの制度の内容とその運用の如何は、わが国の科学技術の隆盛に影響するところが大きい。この見地から、日本学術会議は、さきに大学院の組織及びその基準に関して申入れを行い、特に考慮を煩わして来たが、国立大学においてもいよいよ明年度から新制大学院を設置すべき段階に達したので、ここに重ねてこの制度の重要性を強調し、特に次の諸点について必要な措置を講ぜられたい。

1. 新制大学における大学院は、ひとえに研究者の養成を指向するものであるから、その本質上量よりはむしろ質を重んずべきであり、従つてこれを設置する大学は、その研究施設及び教授組織の充実したものでなければならない。むろん国土計画の観点から、その配置の適正を期さなければならないということはいうまでもないが、総花主義の悪平等におちいり、いたづらに国力を分散させることは、この際極力これをさけなければならない。なお、国立大学に設置される大学院は、修士課程と博士課程とを併せおくことが適当であり、この関連においても、大学院を設置する大学の研究施設及び教授の組織は、高度に充実したものであることが要請される。もつとも大学院入学志望者がこの線に沿うて設置さる大学院の収容能力をはるかに超える場合には、修士課程のみをおく大学院の設置を考慮する必要がある。
2. 大学院における教育は学部教育を基礎とするものであるから、大学院を設置する大学については、助教授、助手を補充して不完全講座の完全化をはかるとともに、戦時中減員された教授定員の復元、その他大学院の必要とにらみあわせて講座の転換または新講座を設置する等、学部の充実を期することが絶対に必要である。なお、研究資料及び図書の整備に努めなければならないことはいうまでもないが、なかならず戦時中次号になつているバックナンバーについては、急速にその補充の途が講じられなければならない。
3. 大学院は科学技術の発達普及の大任をになうべき研究者の養成を目的とする最高の機関であるから、優秀者の収容につとめるとともに、他面これらの研究者が安心してその研究に専念できるように、助成の途を講ずることが必要である。故に大学院学生については、既存の特別奨学生または育英奨学資金制度を拡大するほか、これとは別途に、国費をもつてひろくその研究を助成するための制度を確立することが望ましい。

2-32

庶発第190号 昭和27年5月8日

法務総裁 木村 篤太郎殿

日本学術会議会長 亀山 直人

学問・思想の自由の保障について（申入）

本会議は、4月24日その第12回総会の議決に基き、下記のとおり申し入れます。

記

日本学術会議は、その発足以来、日本国憲法の保障する学問及び思想の自由が充分尊重されることについて深い関心をよせてきました。

しかるに最近世上において、かつての特高警察の取締の復活を憂慮する声がたかまりつつありますが、それは過日東京大学に起つた事件に関連して参議院で明らかにされた事実等に徴しても、事実無限とは考えられません。警察官において、いやしくも日本国憲法を無視し、警察権行使の正当な範囲を逸脱して、学問及び思想の自由を復しあるいは脅かすことのないよう、充分に御配慮下さることを希望します。

2-33

庶発第195号 昭和27年5月8日

各協会あて

日本学術会議会長

学術用語の制定及びその平易化について（申入）

標記のことについて、本会議は、4月24日その第12回総会の議を経て、下記のとおり希望いたします。

記

日本における科学の進歩と普及をはかるために、各学、協会においては学術用語分科審議会の事業に協力し、すみやかに学術用語の制定をはかられたく、かつ、その際、用語はできるかぎり平易なものとするよう特に留意されたい。

2-34

庶発第304号 昭和27年6月18日

内閣総理大臣 吉田 茂 殿

日本学術会議会長 亀山直人

P, B, レポートについて（要望）

第2次世界大戦に際し、ドイツ、日本等を占領した連合国は、被占領国の工業技術を詳細に調査しましたが、米、英両国は、その調査報告、調査資料を、Reports of the Publication Board

（P, B, レポート）として公刊しました。このP, B, レポートは、その価値は極めて大きく、立遅れたわが国の科学技術を振興するために極めて貴重な資料であります。また、国際情勢から近い将来、その重要部分の国外搬出が禁止される恐れもあるものと思われます。

本会議は、政府に対し、これを適当な政府機関（例えば国立国会図書館）で速かに一括購入し、広く一般に公開する措置を講ぜられるよう要望しましたが、貴国会においても、このことの実現についてよろしくお取計らい下さるよう希望します。